

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

— 平成 1 2 年 6 月 調査結果 —

( 平成 1 2 年 7 月 3 日 )

○調査期間：平成 1 2 年 6 月 2 0 日～2 6 日

○調査対象：全国の 3 9 5 商工会議所が 2 6 6 3 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 9 3 製造業 6 4 8 卸売業 2 4 5  
小売業 7 6 5 サービス業 6 1 2

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$D I = ( \text{増加・好転などの回答割合} ) - ( \text{減少・悪化などの回答割合} )$   
業況・採算：( 好転 ) - ( 悪化 )      売上：( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4 / 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成12年6月調査結果のポイント】

業況D1のマイナス幅縮小傾向は足踏み状態

- 6月の景況をみると、全産業合計の業況D1（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したものの、建設業、小売業、サービス業で拡大したことから、前月水準（▲34.9）より1.4ポイント拡大して▲36.3となった。3月に大幅なマイナス幅の縮小（7.2ポイント）が見られた後、4月、5月と若干縮小したものの6月は逆に拡大となり、マイナス幅縮小傾向は足踏み状態となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から111ヵ月、また平成3年9月から106ヵ月連続してマイナス2桁水準となっている。

建設業では、公共工事増加や民間設備投資にやや動きが出始めているといった声が寄せられている一方、「公共工事の本年度予算は、地方公共団体において大幅に減額になっているうえ、本年度の発注状況は、昨年度と比較して遅れている」、「価格競争のための利益率低下により、受注はやや増加するものの採算ベースは悪化」といった厳しい状況も多く指摘されている。製造業では、「携帯電話などの特殊機器の需要が伸びている」（電子部品）、「農業機械を中心に修理、更新需要が順調に出てきている」（農業用機械）など生産量増加の声がある一方で、「受注量は増えているが、コストダウンが厳しい」（自動車・附属品）、「仕事量は増加傾向だが、単価低く採算悪化」（輸送用機械）など、価格競争による採算面の厳しさについての指摘も寄せられている。また、「輸入品の増加等により依然として業況は厳しい」（ゴムプラスチック履物）といった、外国製品との厳しい競争を訴える声も寄せられている。卸売業では、「漁獲・金額とも減少傾向で、先行きが不透明になってきた」（農畜産水産物）、「夏物衣料のシーズンに入っているが、一向に売上に繋がらない」（衣服・日用品）など厳しい業況を訴える声が多いものの、「前年比で売上は好転を見せた。全体的に客単価が上昇傾向である。景気回復が緩やかに進んでいる感がある」（食料・飲料）、との声もある。小売業では、「中旬まで肌寒い日が多く、夏物衣料の動きが鈍く低調に推移」（百貨店）といった声のほか、客数の減少・客単価の下落といった消費低迷の指摘が多く寄せられている。その一方で「若い人向けの店の売上が増加」（商店街）、「梅雨入り後、エアコンの動きが良い」（百貨店）といった声や、「中元商戦に期待」（百貨店）といった声も寄せられている。サービス業では、「ネット関連業の好調さが続く」（ソフトウェア）、「婚礼も多く業況は好転」（美容）などの声が寄せられる一方、「全国チェーンの競合店進出による売上減が大きい」（理容）、「キャンセル等で客足が遠のいている。総選挙の影響や天候不順によるものと思われる」（旅館）、「会社関係等の団体客が少ない。客単価が下がり続けている」（飲食）といった指摘も寄せられている。

売上面では、卸売業を除く4業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことにより、全業種合計の売上D1はマイナス幅が1.1ポイント拡大して▲33.9となった。採算面についても、卸売業を除く4業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことから、全業種合計の採算D1はマイナス幅が2.2ポイント拡大して▲37.7となった。

- 向こう3ヵ月（7月～9月）の先行き見通しは、中元商戦や公共工事の早期発注等に対する先行き期待感が強く、全産業合計の業況D1（今月比ベース）は▲25.1となっている。

【業況についての判断】

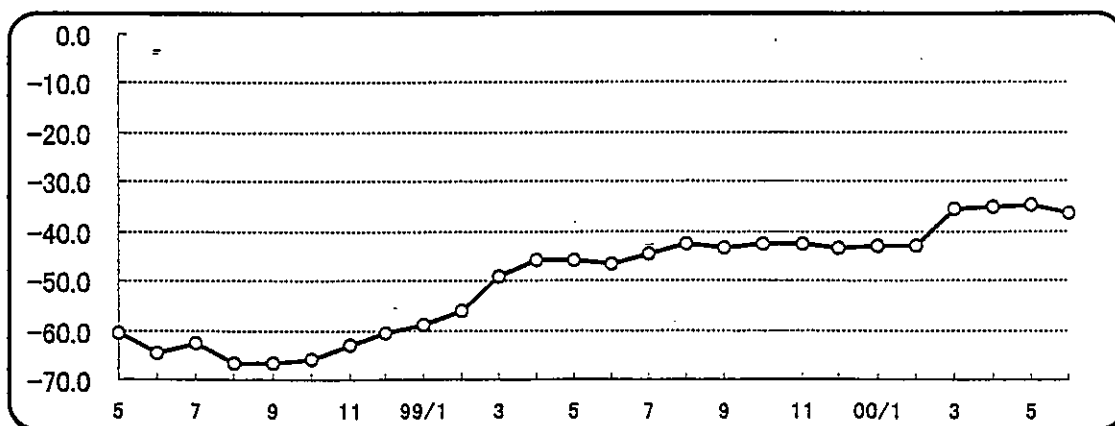
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したものの、建設業、小売業、サービス業で拡大したことから、前月水準（▲34.9）より1.4ポイント拡大して▲36.3となった。3月に大幅なマイナス幅の縮小（7.2ポイント）が見られた後、4月、5月と若干縮小したものの6月は逆に拡大となり、マイナス幅縮小傾向は足踏み状態となった。マイナス水準での推移は平成3年4月から111ヵ月、また平成3年9月から106ヵ月連続してマイナス2桁水準となっている。
- 向こう3ヵ月（7月～9月）の先行き見通しは、中元商戦や公共工事の早期発注等に対する先行き期待感が強く、全産業合計の業況DI（今月比ベース）は▲25.1となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	12年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲ 43.1	▲ 42.8	▲ 35.6	▲ 35.2	▲ 34.9	▲ 36.3	▲ 25.1 (▲ 31.2)
建設	▲ 43.9	▲ 42.9	▲ 38.7	▲ 45.7	▲ 44.5	▲ 45.1	▲ 33.2 (▲ 33.5)
製造	▲ 33.2	▲ 32.1	▲ 26.6	▲ 24.2	▲ 26.2	▲ 26.2	▲ 19.7 (▲ 31.7)
卸売	▲ 36.5	▲ 45.0	▲ 40.0	▲ 36.7	▲ 40.4	▲ 37.6	▲ 33.5 (▲ 25.4)
小売	▲ 52.2	▲ 51.6	▲ 41.4	▲ 45.5	▲ 39.3	▲ 41.1	▲ 28.1 (▲ 34.7)
サービス	▲ 44.7	▲ 42.9	▲ 34.4	▲ 27.0	▲ 29.8	▲ 35.1	▲ 18.3 (▲ 27.1)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しDI  
 ( )内は昨年6月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



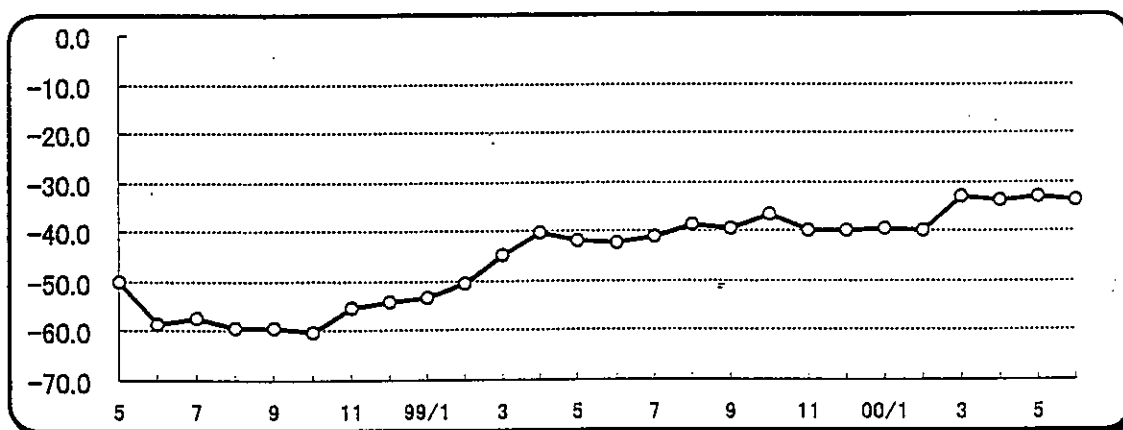
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、卸売業を除く4業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことにより、全業種合計の売上DIはマイナス幅が1.1ポイント拡大して▲33.9となった。
- 向こう3ヵ月(7月～9月)の先行き見通しは、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲19.2となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	12年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲39.4	▲39.9	▲32.9	▲33.9	▲32.8	▲33.9	▲19.2 (▲26.5)
建設	▲36.0	▲34.6	▲30.5	▲38.4	▲38.2	▲38.9	▲25.3 (▲25.2)
製造	▲31.5	▲30.8	▲24.4	▲20.5	▲18.4	▲18.5	▲12.2 (▲30.7)
卸売	▲37.1	▲45.9	▲36.5	▲41.0	▲40.4	▲32.9	▲22.5 (▲22.4)
小売	▲47.7	▲46.9	▲41.7	▲47.5	▲44.1	▲45.1	▲26.3 (▲29.4)
サービス	▲40.6	▲42.4	▲31.4	▲25.7	▲27.7	▲33.8	▲12.3 (▲20.7)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



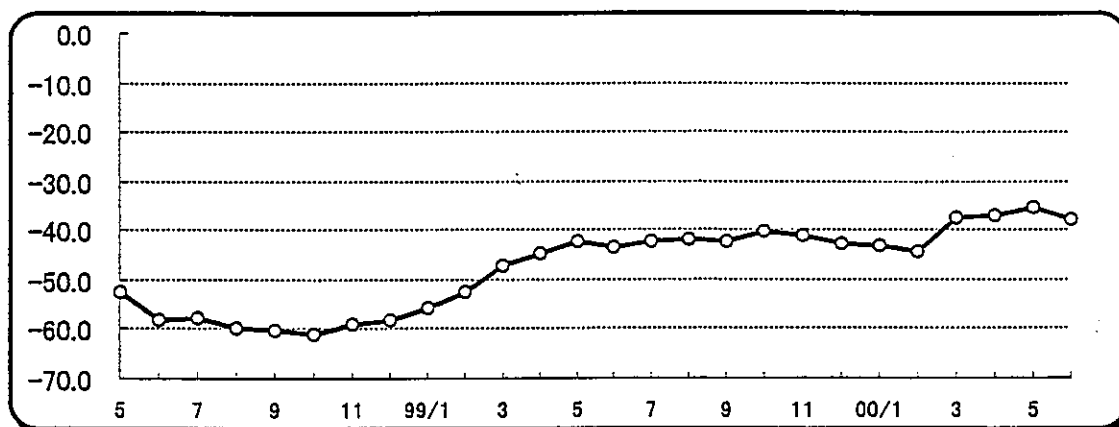
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、卸売業を除く4業種で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことから、全業種合計の採算DIはマイナス幅が2.2ポイント拡大して▲37.7となった。
- 向こう3ヵ月(7月～9月)の先行き見通しは、全産業合計の業況DI(今月ベース)が▲26.5となっている。

採算DI(前年同月比)の推移

	12年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	▲43.0	▲44.4	▲37.4	▲37.1	▲35.5	▲37.7	▲26.5 (▲30.2)
建設	▲47.0	▲47.3	▲43.9	▲46.6	▲48.2	▲50.5	▲37.2 (▲33.7)
製造	▲35.8	▲40.3	▲32.6	▲28.6	▲28.5	▲31.4	▲24.4 (▲35.0)
卸売	▲39.5	▲40.6	▲41.4	▲41.7	▲39.0	▲34.1	▲25.4 (▲23.7)
小売	▲48.6	▲48.4	▲38.9	▲42.6	▲36.9	▲39.1	▲27.5 (▲31.5)
サービス	▲42.5	▲43.6	▲34.7	▲31.5	▲31.3	▲35.5	▲20.4 (▲23.6)

≪採算DI(全産業・前年同月比)の推移≫



(参考)

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	12年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	0.9	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 0.9	▲ 0.8	▲ 0.2	▲ 1.8 (▲ 2.9)
建設	▲ 1.0	0.4	▲ 2.5	1.7	1.3	1.7	0.7 (▲ 3.8)
製造	▲ 5.2	▲ 7.7	▲ 8.3	▲ 7.6	▲ 7.4	▲ 7.6	▲ 8.0 (▲ 4.7)
卸売	16.3	8.7	12.4	7.9	9.6	11.0	3.5 (1.1)
小売	5.1	2.1	2.0	4.0	3.9	4.0	3.0 (0.4)
サービス	▲ 2.8	▲ 2.7	▲ 5.8	▲ 4.7	▲ 5.2	▲ 3.0	▲ 4.7 (▲ 6.2)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】製造業以外の4業種で下落超感強まる。

【先行き見通しD I】特に製造業で上昇超状態続く見通し。

従業員D I (前年同月比) の推移

	12年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	▲ 14.6	▲ 16.0	▲ 13.2	▲ 14.8	▲ 13.4	▲ 11.9	▲ 9.0 (▲ 13.1)
建設	▲ 22.2	▲ 24.6	▲ 20.9	▲ 27.2	▲ 25.3	▲ 24.9	▲ 20.1 (▲ 24.5)
製造	▲ 16.9	▲ 19.5	▲ 14.2	▲ 15.6	▲ 13.0	▲ 12.7	▲ 9.4 (▲ 18.9)
卸売	▲ 13.5	▲ 14.5	▲ 17.6	▲ 20.9	▲ 16.3	▲ 10.4	▲ 7.8 (▲ 6.3)
小売	▲ 12.6	▲ 12.6	▲ 10.4	▲ 12.3	▲ 9.2	▲ 8.0	▲ 8.1 (▲ 8.0)
サービス	▲ 9.6	▲ 10.9	▲ 8.2	▲ 6.4	▲ 9.3	▲ 7.2	▲ 2.4 (▲ 9.8)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】全業種で過剰超感弱まる。

【先行き見通しD I】特に建設業で過剰超状態続く見通し。

【平成12年6月の景気キーワード】

○ 先行き期待

業況の低迷や先行きの不透明感を訴える声は引き続き多いが、業況の底打ち感や先行きへの期待の声も寄せられている。建設業では、公共工事増加や民間設備投資にやや動きが出始めているといった声が寄せられているものの、「公共工事の本年度予算は、地方公共団体において大幅に減額になっているうえ、本年度の発注状況は、昨年度と比較して遅れている」（高松）との声があり、公共工事の早期発注に対する期待が多く寄せられている。製造業では、「各種の印刷用紙の不足の情報あり」（茨木・印刷関連）、「相変わらず厳しい状況が続いているが、秋以降、新規の量産スタートがある」（佐野・金属加工機械）、「新規受注、引合が増加」（西条・建設建築用金属）など、生産量増加の動きが見られるとの声が寄せられている。また、卸売業では、「前年比で売上は好転を見せた。全体的に客単価が上昇傾向である。景気回復が緩やかに進んでいる感がある」（焼津・食料飲料卸）との声が、小売業では、「夏季ボーナスを期待」（京都・商店街）、「7月はお中元のシーズンに入るので期待したい」（姫路・百貨店）といった声が寄せられている。サービス業では、「ネット関連業の好調さが続く」（高岡・ソフトウェア）、「これから夏に向けて期待感が高まっている」（館山・旅館）などの声が寄せられている。

○ 競争激化

建設業からは、「価格競争のため利益率低下により、受注やや増加するも採算ベースは悪化」（福山）、「ハウスメーカーの営業力には勝てない」（小松・木造建築工事）、「各事業所とも受注競争で単価を引下げ採算の厳しい状態」（倉敷・管工事）といった声が寄せられている。また、製造業からは、海外からの安価な製品との価格競争等によって売上減との声のほか、「大手メーカーに押されていて売上・採算が厳しい」（美幌・建具）などの指摘も見られる。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「競合店のセールスや専門大型店の新規出店に左右されて、若干昨年同月比を割る状況」（船橋・百貨店）、「全国チェーンの競合店進出による売上減が大きい」（盛岡・理容）など、顧客獲得競争の激化による採算面への影響を懸念する声が寄せられている。

○ 天候不順

天候不順の要因による業況の低迷を指摘する声が多く寄せられている。卸売業からは、「夏物衣料のシーズンに入っているが、一向に売上につながらない」（姫路・衣服日用品卸）との声が、小売業からは、「中旬まで肌寒い日が多く、夏物衣料の動きが鈍く低調に推移」（札幌・百貨店）、「6月は梅雨時ながら、週末の雨が4週連続と雨との戦いで、一向に気運があがらない」（鹿児島・百貨店）また、サービス業からは、「キャンセル等で客足が遠のいている。総選挙の影響や天候不順によるものと思われる」（青梅・旅館）などの声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
12年 4月	先行き期待	競争激化	
5月	先行き期待	採算面の厳しさ	
6月	先行き期待	競争激化	天候不順

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。公共工事増加や民間設備投資にやや動きが出始めているといった声が寄せられている一方、「公共工事の本年度予算は、地方公共団体において大幅に減額になっているうえ、本年度の発注状況は、昨年度と比較して遅れている」、「価格競争のための利益率低下により、受注やや増加するも採算ベースは悪化」といった厳しい状況も多く指摘されている。
製 造	業況D1は前月と同水準だったが、売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「携帯電話などの特殊機器の需要が伸びている」（電子部品）、「農業機械を中心に修理、更新需要が順調に出てきている」（農業用機械）など生産量増加の声がある一方で、「受注量は増えているが、コストダウンが厳しい」（自動車・附属品）、「仕事量は増加傾向だが、単価低く採算悪化」（輸送用機械）など、価格競争による採算面の厳しさについての指摘も寄せられている。また、「輸入品の増加等により依然として業況は厳しい」（ゴムプラスチック履物）といった、外国製品との厳しい競争を訴える声も寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べマイナス幅が縮小している。「漁獲・金額とも減少傾向で、先行きが不透明になってきた」（農畜産水産物）、「夏物衣料のシーズンに入っているが、一向に売上に繋がらない」（衣服・日用品）など厳しい業況を訴える声が多いものの、「前年比で売上は好転を見せた。全体的に客単価が上昇傾向である。景気回復が緩やかに進んでいる感じがある」（食料・飲料）との声もある。
小 売	業況・売上・採算D1とも前月のマイナス幅縮小から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「中旬まで肌寒い日が多く、夏物衣料の動きが鈍く低調に推移」（百貨店）といった声のほか、客数の減少・客単価の下落といった消費低迷の指摘が多く寄せられている。その一方で「若い人向けの店の売上が増加」（商店街）、「梅雨入り後、エアコンの動きが良い」（百貨店）といった声や、「中元商戦に期待」（百貨店）といった声も寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「ネット関連業の好調さが続く」（ソフトウェア）、「婚礼も多く業況は好転」（美容）などの声が寄せられる一方、「全国チェーンの競合店進出による売上減が大きい」（理容）、「キャンセル等で客足が遠のいている。総選挙の影響や天候不順によるものと思われる」（旅館）、「会社関係等の団体客が少ない。客単価が下がり続けている」（飲食）といった指摘も寄せられている。



(参考)

【ブロック別概況】

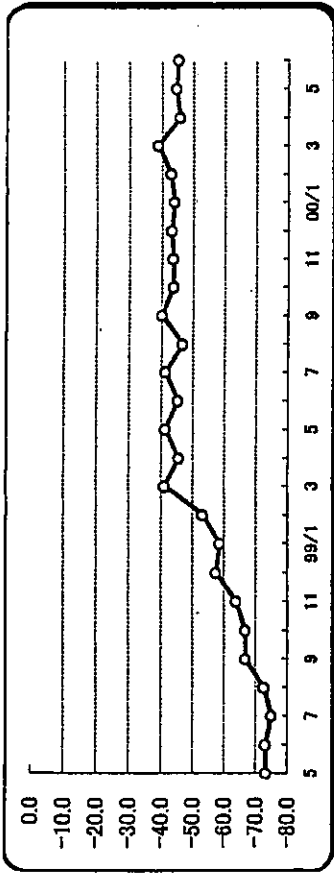
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では、全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、北海道・東北・関東・近畿・中国・四国で前月水準を下回り、他のブロックで前月水準を上回った。
- ブロック別の向こう3ヵ月（7月～9月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。北海道以外の全ブロックで前年同時期の見通しより上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

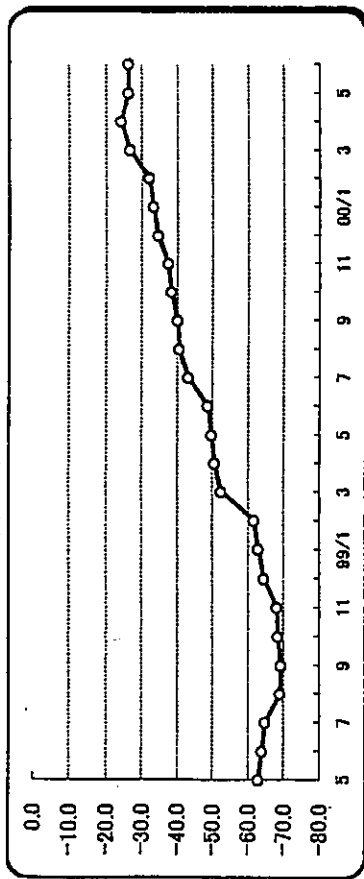
	12年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全 国	▲ 43.1	▲ 42.8	▲ 35.6	▲ 35.2	▲ 34.9	▲ 36.3	▲ 25.1 (▲ 31.2)
北海道	▲ 41.0	▲ 28.2	▲ 27.5	▲ 36.8	▲ 41.4	▲ 44.4	▲ 30.1 (▲ 19.9)
東 北	▲ 38.0	▲ 35.2	▲ 24.2	▲ 35.5	▲ 33.3	▲ 34.8	▲ 24.2 (▲ 31.3)
北陸信越	▲ 42.7	▲ 35.6	▲ 31.7	▲ 29.9	▲ 31.0	▲ 28.0	▲ 19.5 (▲ 24.7)
関 東	▲ 41.3	▲ 43.2	▲ 37.6	▲ 33.4	▲ 33.7	▲ 34.2	▲ 19.5 (▲ 27.5)
東 海	▲ 48.0	▲ 44.2	▲ 43.3	▲ 36.8	▲ 36.3	▲ 32.2	▲ 23.1 (▲ 40.4)
近 畿	▲ 50.8	▲ 55.4	▲ 42.3	▲ 48.9	▲ 39.7	▲ 47.9	▲ 39.3 (▲ 39.6)
中 国	▲ 48.3	▲ 46.7	▲ 39.8	▲ 33.6	▲ 33.9	▲ 34.1	▲ 28.8 (▲ 40.8)
四 国	▲ 44.1	▲ 60.0	▲ 44.4	▲ 42.1	▲ 40.7	▲ 47.4	▲ 23.7 (▲ 28.9)
九 州	▲ 34.7	▲ 33.7	▲ 24.8	▲ 21.8	▲ 28.4	▲ 27.7	▲ 20.4 (▲ 28.4)

# 業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

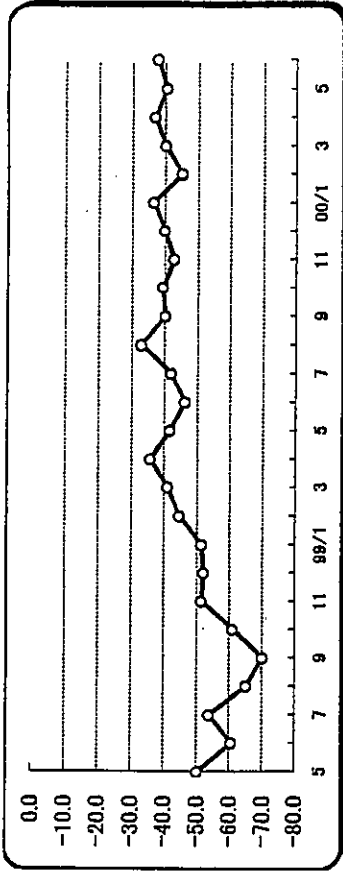
## 建設業



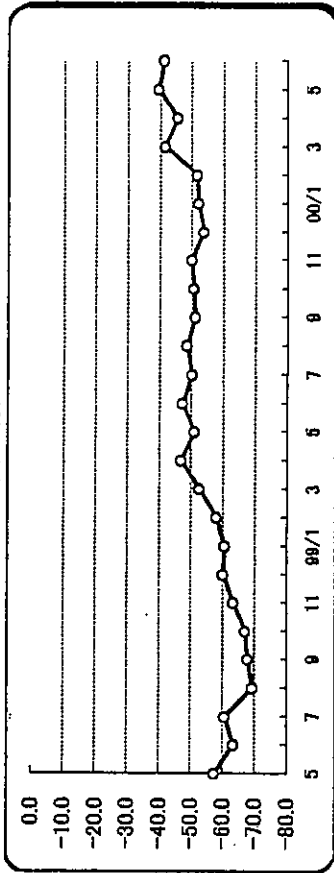
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

